

高齢者疾患の特徴

- ・複数の疾患を併せもつ
- ・個人差が大きい
- ・症状が非定型的
- ・慢性の疾患が多い
- ・予後やQOLが社会的要因に影響される

※医療分野の覚え方

逆だったら×、入れ替わっていたら×

1

高齢者に多い疾患

- | | |
|--------|-------|
| ・代謝異常 | ・がん |
| ・脳・神経 | ・骨・関節 |
| ・循環器 | ・目 |
| ・呼吸器 | ・皮膚 |
| ・消化器 | ・精神疾患 |
| ・腎臓・尿路 | |

※疾患(病名)と老年症候群(症状)は違う

※特定疾病(2号被保険者が介護保険を受けられる病名)

2

第2号被保険者（40歳から64歳）

特定疾病が原因となって、介護が必要であると認定された方

特定疾病以外が原因で介護が必要になった場合は、介護保険の対象にはなりません

『特定疾病』とは

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1. がん(がん末期) | 9. 脊柱管狭窄症 |
| 2. 関節リウマチ | 10. 早老症 |
| 3. 筋萎縮性側索硬化症 | 11. 多系統萎縮症 |
| 4. 後縦靱帯骨化症 | 12. 糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症および糖尿病性網膜症 |
| 5. 骨折を伴う骨粗しょう症 | 13. 脳血管疾患 |
| 6. 初老期における認知症 | 14. 閉塞性動脈硬化症 |
| 7. 進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症およびパーキンソン病 | 15. 慢性閉塞性肺疾患 |
| 8. 脊髄小脳変性症 | 16. 両側の膝関節または股関節に著しい変形を伴う変形性関節症 |

3

代謝異常

- ・ 糖尿病（3大合併症は特定疾病、糖尿病×）
- ・ 脂質異常症
- ・ 低ナトリウム血症
- ・ 熱中症

※脂質異常症と低ナトリウム血症は余裕があったら自習

4

代謝異常

糖尿病（3大合併症は特定疾病、糖尿病×）

インスリンのはたらきが不足して高血糖状態になる

1型：遺伝要因

2型：生活習慣（高齢者のほとんどが2型）

3大合併症：糖尿病性神経障害、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症

※体調不良時（シックデイ）には注射剤の効果が強く出ることがあるので注意が必要

5

代謝異常

熱中症

- ・暑熱環境における身体適応の障害によっておこる状態の総称
- ・熱中症は、夏の強い日射しのなかで運動するときだけでなく、室内で過ごしているときにも起こる。
- ・高齢者は体温の調節機能が低下しているため暑さを自覚しにくく熱中症になりやすい。

症状：めまい、失神、筋肉痛、多量の発汗後の無汗、頭痛、
気分不快、嘔吐、倦怠感、高体温、意識障害

6

脳・神経の疾患

- ・脳卒中（特定疾病○、心疾患×）
- ・筋萎縮性側索硬化症（ALS）特定疾病○
- ・パーキンソン病（特定疾病○）
- ・進行性核上性麻痺（特定疾病○）
- ・大脳皮質基底核変性症（特定疾病○）
- ・脊髄小脳変性症、多系統萎縮症（特定疾病○）

※脊髄小脳変性症、多系統萎縮症は余裕があったら自習

※認知症(アルツハイマー、血管性、レビー小体、前頭側頭)と混同しないように

7

脳・神経の疾患

脳卒中（特定疾病に含まれる、心疾患×）

血管が詰まる：脳梗塞、脳血栓

血管が破ける：脳出血、くも膜下出血

- ・左脳で脳卒中が起きると右半身に麻痺
- ・右脳で脳卒中が起きると左半身に麻痺
- ・左半側空間失認では左側に注意を向けるリハビリテーションが必要

脳の損傷(一般的には右半球)により、視力の問題とは別に左側の空間の認識が出来なくなること。例えば、左側の食事を残す、左側の壁にぶつかるなどがあり、症状が強いとそれらを自覚することも難しくなる場合がある。

8

脳・神経の疾患

筋萎縮性側索硬化症 ALS（特定疾病に含まれる）

- ・原因不明
- ・全身の骨格筋が委縮し、数年で四肢麻痺、摂食障害、呼吸麻痺が進行
- ・知覚神経や記憶力は末期まで保たれる
- ・進行を遅らせる薬剤はあるが、阻止することはできない。
- ・補助具を用いた介護と運動訓練を行う（回復はしない）
- ・進行に応じて文字盤やPCを使った意思伝達装置や人工呼吸器を使用

9

脳・神経の疾患

パーキンソン病（特定疾病に含まれる）

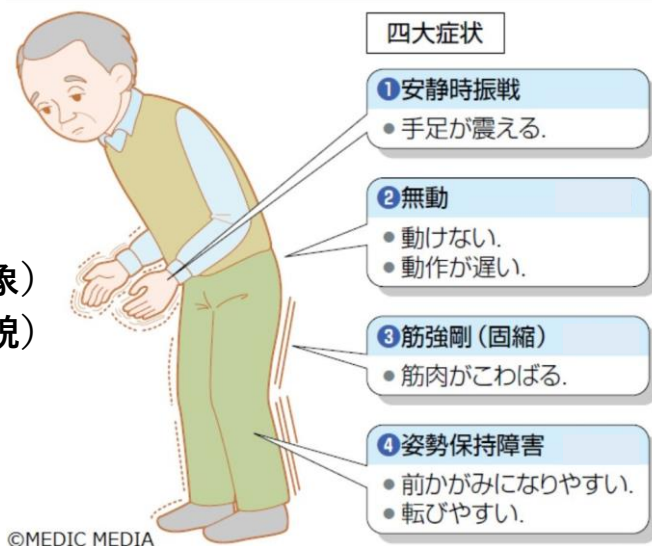
- ・脳の黒質にある神経細胞が変性・消失
- ・自律神経障害(起立性低血圧、排尿障害)がみられる
- ・薬物療法が基本で運動療法なども行う
- ・重症度分類：ホーエン&ヤールの臨床度的重症度分類（NYHA×）
- ・認知症になりやすい

10

脳・神経の疾患

パーキンソン病の四大運動症状

- ①振戦（身体のふるえ）
- ②筋固縮（筋肉の硬さ、歯車現象）
- ③無動（動作の遅さ、仮面様顔貌）
- ④姿勢・歩行障害



11

脳・神経の疾患

進行性核上性麻痺（特定疾病に含まれる）

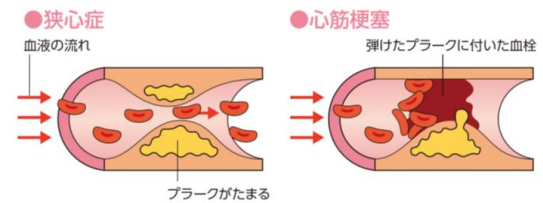
- ・ パーキンソン病に似ている
- ・ 早期から眼球運動障害や認知機能の低下がみられ、転倒しやすい
- ・ 転倒や誤嚥しやくすするため、生活環境を整える必要がある。

※大脳皮質基底核変性症もほぼ同じ

12

循環器の疾患

- ・ 心筋梗塞（特定疾病×）
- ・ 狭心症（特定疾病×）
- ・ 高血圧症（特定疾病×）
- ・ 心不全（特定疾病×）
- ・ 不整脈（特定疾病×）
- ・ 閉塞性動脈硬化症（特定疾病○）



13

循環器の疾患

心筋梗塞（特定疾病×）

- ・ 冠動脈が動脈硬化などによって詰まる
- ・ 冷汗を伴う前胸部の痛み、しめつけ感、肩や腹部の痛み
- ・ 発症後短時間であれば再疎通療法も適用
- ・ 生活習慣(高血圧、脂質異常、糖尿病、喫煙)に注意

14

循環器の疾患

狭心症

- ・冠動脈の狭窄
- ・症状がないときには心電図では異常がない
24時間心電図（ホルター心電図）

①労作性狭心症

運動時に前胸部の圧迫感が生じる

②異型狭心症

夜間・未明などに(運動していないとき)前胸部に圧迫感

治療：カテーテル治療

発作時：ニトロ製剤の舌下投与

15

循環器の疾患

高血圧症

140/90mmHg以上

①本態性高血圧：原因不明（高血圧症のほとんどがこれ）

②二次性高血圧：原因がはっきりしている

③白衣性高血圧：病院で測定するときだけ高くなる

症状：自覚症状ないことが多い

治療：降圧剤（副作用で転倒しやすいので注意）

16

循環器の疾患

心不全

心筋梗塞などにより血液を押し出す力が低下し、血液を十分に供給できない状態

症状：呼吸困難、食欲低下、浮腫、肺水腫、失見当識、
認知症のような症状、ショック状態など様々

対応：呼吸困難に対しては起座位、半座位が有効

留意点：塩分制限、禁煙、体重管理、血圧管理、水分制限

17

循環器の疾患

不整脈：心臓の拍動の異常

①頻脈性不整脈

100回/分以上

②徐脈性不整脈

60回/分未満、ペースメーカー植え込み

③心房細動

心房細動によってできた血栓により脳梗塞をきたすことが多い

18

循環器の疾患

閉塞性動脈硬化症（特定疾病○）

動脈硬化によって血管が狭くなり抹消まで血液が送れない状態

対応：血管拡張剤、抗血小板薬、人工血管バイパス術

※間欠性跛行

大腿動脈の狭窄により歩行時の下肢の痛みが出現。休むと回復。
（休んでも回復しない×）



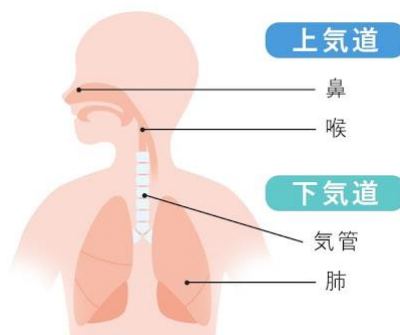
19

呼吸器の疾患

・慢性閉塞性肺疾患（COPD）特定疾病○

肺気腫、慢性気管支炎、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息の総称

- ・急性上気道炎
- ・急性気管支炎
- ・肺炎
- ・肺結核
- ・喘息



20

呼吸器の疾患

・慢性閉塞性肺疾患（COPD）特定疾病〇

疾患名	特徴	症状
肺気腫	肺胞壁が壊れ、酸素と二酸化炭素のガス交換が十分にできなくなった状態	喘鳴、呼吸困難 禁煙指導が必要
慢性気管支炎	痰を伴った咳が2年以上、主として毎年冬場に3か月以上続くもの	軽度の労作時に息苦しさが発生
びまん性汎細気管支炎	呼吸細気管支領域がびまん性炎症により呼吸障害を起こしたもの	労作時の息切れだけでなく、持続した咳もみられる
気管支喘息	発作性の呼吸困難が反復する	発作時に発症する喘鳴と咳を伴った呼吸困難で、夜間・早朝に発症することが多い

- ・有害物質の長期にわたる吸入、特に喫煙が最大の原因とされている。
- ・風邪から肺炎に進展しやすいために、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンの接種が勧められている。
- ・喫煙者は禁煙させる。
- ・治療は薬物療法や呼吸リハビリテーションが中心。薬物療法には吸入の気管支拡張薬や吸入ステロイド薬が使用される。低酸素血症が進行してADLが低下した場合は、在宅酸素療法が行われる。

21

呼吸器の疾患

急性上気道炎

主に上気道（鼻、咽頭、喉頭）に広がって急性炎症をきたす疾患の総称。いわゆる風邪症候群のこと。原因の大半はウィルスなので抗菌薬は不要のことが多い。安静や水分補給で自然治癒する。

（肺炎予防のために抗菌薬を使用する×）

急性気管支炎

上気道から気管、気管支へと炎症が波及したもの。ウィルスによるものが多いが、2次性の細菌感染が起る場合もあるので抗菌薬を使用することがある。

22

呼吸器の疾患

肺炎

肺炎はウィルスや細菌などの病原性微生物の感染によって起こることが多いが、嚥下障害による誤嚥性肺炎もある。

肺炎球菌ワクチンの定期接種（5年）は公費助成

症状：発熱と咳が主症状。高齢者では症状が出にくいことも多い（不顕性肺炎）、食欲低下、意識障害、不穏

治療：抗生物質の投与

23

呼吸器の疾患

肺結核

結核菌が肺に感染。高齢者の場合、若い頃に感染して体内に残っていた結核菌が再活性化することで発症することもある。

症状：咳、痰、血痰、喀血、胸痛、発熱、高齢者では症状が出にくいこともある

治療：抗結核剤による薬物療法

結核は2類感染症に分類されており、医師は直ちに保健所長を経由して都道府県知事に届け出る義務がある。

施設内感染が起こり得るので注意が必要。

24

呼吸器の疾患

喘息

気管支に炎症が出現し、気道が狭くなる病気。ダニやハウスダストに対するアレルギーが関係していることも多いが原因不明のこともある。

症状：痰や咳。気管支が狭くなることでヒューヒューという喘鳴を伴って息苦しくなる。

治療：ステロイドなどの吸入薬、禁煙

25

消化器の疾患

- ・ 胃・十二指腸潰瘍
- ・ 胆石症・胆のう炎
- ・ 肝炎
- ・ 肝硬変
- ・ 潰瘍性大腸炎

※胆石症・胆のう炎は余裕があれば自習

26

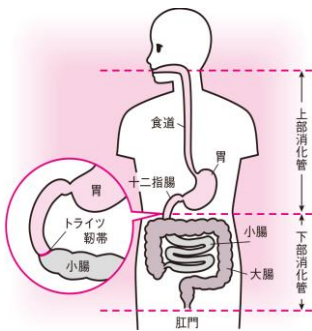
消化器の疾患

胃・十二指腸潰瘍

潰瘍は、胃酸によって消化管壁が損傷されることによって起こる。原因として、ヘリコバクター・ピロリ菌の感染による慢性胃炎のほか、薬の副作用、ストレスなどが考えられる。

症状：上腹部の痛み、重症化すると吐血、下血やタール便がみられる

治療：内服治療、内視鏡治療、ピロリ菌の除菌



27

消化器の疾患

肝炎

	原因	症状
急性肝炎	A型肝炎ウイルス 自己免疫疾患 薬剤アレルギー	全身倦怠感、食欲不振 腹痛、肝不全、黄疸
慢性肝炎	B型・C型肝炎 アルコール性肝炎	初期は無症状 肝硬変へ進行、黄疸

28

消化器の疾患

肝硬変

ウィルス性の慢性肝炎から移行したものが多く、肝臓組織が長期の炎症のために壊死し、線維化して硬く変化したもの。

症状：初期は無症状。肝硬変が進行すると肝不全となつて、食欲不振、全身倦怠感、黄疸、腹水、浮腫など

治療：薬物治療、肝移植

29

消化器の疾患

潰瘍性大腸炎

大腸の粘膜が炎症を起こして潰瘍を起こす疾患。

症状：粘血便、下痢、腹痛、体重減少、貧血、発熱など

治療：薬物治療、大腸の切除術

30

腎臓・尿路の疾患

- ・ 腎不全
- ・ 前立腺肥大

31

腎臓・尿路の疾患

腎不全

腎臓の機能が低下して、体内水分量や体液の調節ができなくなった状態。

急性腎不全、慢性腎不全、慢性腎不全の急性増悪がある。

症状：全身倦怠感、悪心、嘔吐、浮腫、欠尿、多尿など

食事療法：低たんぱく、高カロリー、減塩

透析療法：血液透析、腹膜透析

32

腎臓・尿路の疾患

前立腺肥大

男性のみ。自覚症状乏しい。

症状：夜間頻尿、残尿感、溢流性尿失禁

食事療法：適度な水分を摂り、過度なアルコールや刺激物は避ける。

33

がん(末期がんは特定疾病、初期がん×)

若年者と比較して、高齢者のがんは質的には差はないとされているが、痛みの訴えは少なくなる傾向。

終末期には全身倦怠感、食欲不振、痛みなど

終末期とは治療効果が期待できず、生命予後が6か月以内と考えられる状態。

34

骨・関節の疾患

- ・変形性膝関節症（両側なら特定疾病）
- ・関節リウマチ（特定疾病○）
- ・脊柱管狭窄症（特定疾病○）
- ・後縦靱帯骨化症（特定疾病○）
- ・骨粗鬆症（骨折を伴えば特定疾病）
- ・大腿骨頸部骨折

35

骨・関節の疾患

変形性膝関節症（両側なら特定疾病）

膝関節の軟骨がすり減り骨端がじかに触れることで、関節炎や変形を生じた結果、痛みが生じる疾患

症状：長時間の歩行や深く膝を曲げたときに痛みがでる。

朝の起床時にこわばりが強く出ることがある。

治療：鎮痛剤、ステロイドやヒアルロン酸注射、減量のための食事療法や運動療法

36

骨・関節の疾患

関節リウマチ（特定疾病）

関節の表面の滑膜に炎症を起こす原因不明の自己免疫疾患

症状：関節腫脹・疼痛(多くは左右対称に出現)、朝のこわばり(起床時に指の関節の屈曲が難しい)。

治療：薬物療法、手術、リハビリテーション

37

骨・関節の疾患

脊柱管狭窄症（特定疾病）

腰椎内部の神経の通路である脊柱管が狭くなることにより脊髄が圧迫される。

症状：腰痛、下肢痛、しびれ、膀胱直腸障害。
間欠性跛行(安静時には症状なし)

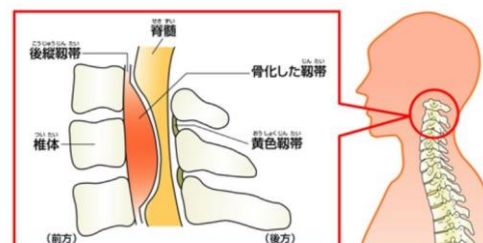
対応：背中を反らせた姿勢は脊柱管をより狭くして神経を圧迫するため避ける。脊柱管を少し広げるためやや前屈姿勢が良い。

38

骨・関節の疾患

後縦靱帯骨化症（特定疾病）

後縦靱帯が骨化することによって
脊髄が通る脊柱管が細くなり、
神経が圧迫されて神経障害をきたす。
男性に多い。



症状：頸部痛、上下肢のしびれ、感覚鈍麻、膀胱直腸
障害など。

対応：首を強く後ろに反らすことで症状が悪化する
ことがあるので、そのような動作は避ける。

39

骨・関節の疾患

骨粗鬆症（骨折を伴えば特定疾病）

女性ホルモンの分泌低下、運動不足、カルシウム不足、
日光浴不足などが原因で骨の形成が阻害され、骨密度
が低下。女性に多い。

症状：骨折しやすくなる、身長が低くなる。

対応：適度な運動、日光浴、転倒に注意。

40

骨・関節の疾患

大腿骨頸部骨折

高齢者に多くみられる骨折で転倒時に発生。
寝たきりの主要な原因となる骨折。

対応：転倒リスクの軽減

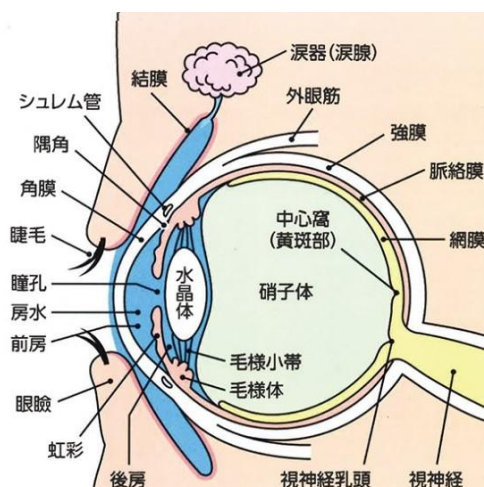
ヒッププロテクターの装着

早期離床と適切なリハビリテーション

41

目の疾患

- ・ 白内障
- ・ 緑内障
- ・ 加齢黄斑変性症



42

目の疾患

白内障

水晶体の混濁により視力低下をきたす。

症状：羞明、夜間視力低下、単眼複眼、失明

対応：強い紫外線を避ける、生活習慣病に気をつける

43

目の疾患

緑内障

房水と呼ばれる眼内の液体の流れが障害されることで眼圧が上昇し、視神経が障害されることで起こる。ただし、日本人では眼圧が正常にもかかわらず緑内障になる人も多く、これを正常眼圧緑内障という。

症状：視野の中に見えない場所(暗点)が生じたり、
視野が狭くなったりする。治療が遅れると失明

対応：生活習慣病に気をつける

44

目の疾患

加齢黄斑変性症

加齢により網膜の中心にある黄斑部が変性する

症状：視野の中心部のゆがみ。中心暗点(中心部が見えなくなる)、失明に至ることもある

対応：生活習慣病に気をつける

45

皮膚の疾患

- ・ 疥癬
- ・ 薬疹
- ・ 白癬・皮膚カンジダ症
- ・ 皮脂欠乏症・皮膚掻痒症・脂漏性湿疹
- ・ 帯状疱疹

46

皮膚の疾患

疥癬

ヒゼンダニが皮膚に寄生して起こる。施設や病院で集団発生する危険性がある。普通の疥癬と、ダニの数が多く手足がゴワゴワとするノルウェー疥癬に分けられる。

※普通の疥癬は個室管理必要なし

※ノルウェー疥癬は感染力が非常に強いので一定期間の個室管理が必要

47

皮膚の疾患

薬疹

薬に対するアレルギー反応として皮膚に湿疹が出る。薬疹が出た薬の服用は直ちに中止する必要があるため、速やかに医師に相談。

※長期間服用している薬剤でも生じることがある

48

皮膚の疾患

白癬・皮膚カンジダ症

白癬、カンジダというカビ(真菌)に感染することで起こる。足にできる白癬は水虫とも呼ばれる。カンジダは陰部で多く発生。

※爪切りやスリッパ、足ふきマット等を共用しないようにする。

49

皮膚の疾患

皮脂欠乏症

皮脂欠乏症は皮膚内の水分量が減少し皮脂の分泌力も低下するので、カサカサして痒みが生じる。

皮膚掻痒症

皮膚が乾燥し、被服などとの接触で痒みが生じる

脂漏性湿疹

皮脂が過剰分泌され皮脂を好む真菌が繁殖することで炎症が起き痒みが生じる

50

皮膚の疾患

带状疱疹

以前に感染して体内で不活性だった水痘・带状疱疹ウィルスが、免疫能の低下により再活性化して発症

水泡が体の左右のどちらかに帯状に出現。強い痛みを伴う。後遺症として神経痛が残り、その後のQOLが低下することがある(带状疱疹後神経痛)。

51

精神疾患

- ・ 老年期うつ病
- ・ 統合失調症
- ・ 妄想性障害
- ・ アルコール依存症

	高齢者のうつ病	認知症 アルツハイマー型 レビー小体型
初期の症状	不眠・食欲低下など 体の不調 など	物忘れなど 記憶障害 など
症状の進行	何らかのきっかけで 発症・進行する	長時間かけて ゆっくり進行する
精神症状	貧困妄想・心気妄想 など	侵入妄想 ものとりれ妄想 など

52

精神疾患

老年期うつ病（抑うつとは違う）

原因：女性ホルモン、脳内神経伝達物質の異常、脳の血流障害、身体疾患、喪失体験、孤独など様々

症状：気分の落ち込み、全身倦怠感、睡眠障害、めまい、排尿障害、便秘、自殺企図

治療：抗うつ薬、抗不安薬などの薬物療法が中心
※老年期うつ病の一部は、認知症に移行する



53

精神疾患

統合失調症

症状：幻聴や妄想、奇異行動、感情鈍麻、無気力、自閉など様々

治療：薬物療養と心理社会療法の組み合わせ

妄想性障害

症状：身近な人物が対象で、現実の生活を反映した内容であることが多い

治療：心理的な洞察と共感、適切な社会的支援

54

精神疾患

アルコール依存症

	原因・特徴	予後
若年発症型	男性に多く、遺伝負因を有し、教育水準が低い。就労が一定しないため、経済状況が不安定なことが多い。	複数の身体合併症を伴い、予後が悪い
老年発症型	遺伝負因なし、身体的老化と喪失体験や社会的孤立などの環境変化が原因。	良好

※アルコール依存症は精神障害者福祉手帳の対象となる

55

問題 41 高齢者の疾患について、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 症状は、しばしば非定型的である。
- 2 複数の疾患を有することが多いため、積極的に多くの薬剤を併用する。
- 3 環境の変化により、病状が変動することはない。
- 4 老年症候群には、認知症、うつなど精神疾患・精神症状も含まれる。
- 5 高齢者のQOLや予後は、療養環境、家庭や地域社会の対応などの社会的要因によって影響される。

56

問題 30 神経難病について適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 筋萎縮性側索硬化症(ALS)では、眼球運動や肛門括約筋、知覚神経は末期まで保たれる。
- 2 筋萎縮性側索硬化症(ALS)でみられる筋力低下や筋萎縮には、筋力トレーニングが効果的である。
- 3 パーキンソン病では、精神症状、自律神経症状は出現しない。
- 4 パーキンソン病の治療は、薬物療法が基本である。
- 5 進行性核上性麻痺では、思考の遅延や無感情などの認知機能低下を早期から認めやすい。

57

問題 28 循環器に関する次の記述について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 心筋梗塞、弁膜症による心不全では、呼吸困難などの呼吸器症状は出現しない。
- 2 心房細動は、脳梗塞の原因の一つである。
- 3 心筋梗塞には、発症後短時間であれば、閉塞した冠動脈の再疎通療法が適応となる場合がある。
- 4 不整脈は、心臓自体の異常のほか、ストレスや喫煙、睡眠不足、飲酒などで起こることもある。
- 5 起立性低血圧が認められた場合には、心臓の負荷を減らすため、血管拡張薬が処方される。

58

問題 29 呼吸器疾患について、より適切なものはどれか。3つ選べ。

- 1 急性上気道炎では、ウイルス感染が疑われる場合であっても、肺炎予防のために抗菌薬を使用する。
- 2 誤嚥性肺炎は、口腔咽頭分泌物などを繰り返し誤嚥することにより発症する。
- 3 慢性閉塞性肺疾患(COPD)では、気管支拡張薬や吸入ステロイド薬が使用される。
- 4 慢性閉塞性肺疾患(COPD)は、介護保険法の特定疾病に指定されている。
- 5 慢性閉塞性肺疾患(COPD)では、発症すると症状は改善しないため、禁煙する必要はない。

59

問題 26 高齢者に多い症状や疾患について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 パーキンソン病の臨床的重症度の評価は、NYHAの重症度分類によって行う。
- 2 狭心症の発作に対しては、ニトログリセリン製剤の投与が効果的である。
- 3 褥瘡は、大転子部には発症しにくい。
- 4 疥癬は、集団感染の危険性がある。
- 5 肝不全の症状として、食欲不振、全身倦怠感、黄疸がみられることが多い。

60

問題 27 高齢者に多い疾病について正しいものはどれか。3つ選べ。

- 1 関節リウマチでは、朝の起床時に指の関節がこわばり、屈曲しにくくなる。
- 2 脊柱管狭窄症では、腰痛、下肢痛、しびれはみられない。
- 3 大腿骨頸部骨折の受傷原因として最も多いのは、転倒である。
- 4 加齢黄斑変性症は、高齢者の重篤な視力障害の原因の一つである。
- 5 ノルウェー疥癬(角化型疥癬)は、ダニの数が少ないので、感染力が弱い。

61

問題 29 皮膚疾患について、より適切なものはどれか。2つ選べ。

- 1 薬疹は、長期間服用している薬剤により生じることがない。
- 2 寝たきりで関節拘縮のある場合には、特定の部位に圧力が集中して褥瘡が生じやすいので、体圧分散寝具を使用するのがよい。
- 3 皮脂欠乏症では、患部を清潔に保つことが悪化予防になることから、ナイロンタオルを使ってよく洗う。
- 4 白癬は家族内で感染することはまれであるため、爪切りやスリッパなどは共用しても差し支えない。
- 5 脂漏性湿疹では、患部を清潔に保つほか、抗真菌薬などを使用する。

62

問題28 高齢者にみられる疾患について正しいものはどれか。3つ選べ

- 1 変形性関節症は、高齢者に多く発症する。
- 2 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) では、筋力低下による運動障害は生じない。
- 3 高次脳機能障害における失語症には、話そうとするが言葉が出てこないという症状も含まれる。
- 4 パーキンソン病では、認知障害はみられない。
- 5 骨粗鬆症は、骨折の大きな危険因子である。